

令和3年度8020公募研究報告書抄録（採択番号：21-4-09）

研究課題：歯科訪問診療に対する新型コロナウイルス感染拡大の影響と問題点

研究者名：萩原芳幸¹⁾， 米山武義²⁾

所属：日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座¹⁾， 静岡県開業²⁾

目的：

2020年春から日本国内に拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により歯科医療も多大な影響を受けた。歯科訪問診療（訪問診療）の対象は高齢者が多く、感染リスクを鑑みて訪問自体を見合わせた例が多数報告されている。この流れの中で訪問診療がCOVID-19により、どのような影響を受けたのかの報告は無い。今回、訪問診療の中止・中断の実態やそれに伴う患者の口腔内および全身状態変化について調査を行った。

研究方法：

関東信越厚生局ホームページの訪問診療医リスト（東京都，神奈川県，千葉県，埼玉県）から無作為抽出した1500名に対して郵送アンケート形式で、COVID-19が訪問診療に与えた影響について以下の調査を行った。①訪問診療の基本情報，②訪問診療の中断と再開の実態，③感染予防措置の実施状況，④口腔ケアの実施状況，⑤モチベーションや心理的状況変化，⑤訪問診療再開後の患者口腔内・全身状態変化

結果と考察：

アンケート調査の回答は322件で回収率は21.4%であった。COVID-19の拡大により訪問診療を中断・中止したのは1/3程度で、その決定は歯科医師および患者（家族・施設）の意思が重視された。患者や家族・職員がCOVID-19に罹患した例は20～35%程度であったが、訪問を行う医療従事者側の感染は非常に少なかった。訪問診療再開時期は集計不可能だったが、①感染者数の減少，②緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の解除状況，③予防接種の完了状況等を参考にする傾向が示された。訪問診療では感染予防が徹底され、防護服・フェイスシールドが大きな役割を担っていた。エアゾールの発生を伴う切削や超音波スケーラーの使用を控えたとの回答も約44%であった。COVID-19の拡大が心理的に訪問診療実地に与える影響は少なからず見受けられた。訪問診療に対する協力に関しては歯科衛生士ならびに患者・家族（施設）共に、モチベーション・協力度の低下が1/4程度認められた。患者の状況を電話やメールで確認を行ったのは40%程度であった。訪問診療の中止・中断による患者の全身状態の変化は顕著にみられたとは言い難いが、訪問診療の継続により予防が可能であるとの見解が多かった。

まとめ：

訪問歯科診療の中止・中断を行ったのは回答者の1/3程度であり、中止・中断率は想定よりも低かった。訪問時の感染予防措置は最善の策がとられ、医療従事者および患者への安心・安全が配慮されていた。しかし、訪問診療の中断期間においては口腔内衛生状態の悪化、う蝕や歯周病の進行が認められ、訪問診療の中止・中断は患者の口腔内および全身状態には少なからず悪影響を与えていたことが示唆された。